全酪連会報 7

2024 JUL No.706

ZENRAKUREN

酪農とのかけはし／
株式会社菅原道北削蹄所
会長 菅原洋充さん

父の日に牛乳を贈ろう! 前編

品質保証室だより／
夏場のエサ管理

第50回 らくのうこどもギャラリー
入賞作品紹介

日本酪農見て歩紀／
松田牧場
（石川県珠洲市）

酪農トピックス／
盛況!千葉県「ミルクフェスティバル2024」
今年も開催!!（東京）ほか

LINE公式アカウントができました!
登録お願いします!

酪農青年女性会議
@642bpcwk

全国酪農業協同組合連合会

酪農とのかけはし

第50回 株式会社菅原道北削蹄所 会長 菅原洋充さん

伝統技術で牛の健康を守る親方

牛の健康に重要な役割を担っている削蹄。公益社団法人日本装削蹄協会が認定する牛削蹄師の中でも、「指導級認定牛削蹄師」は牛削蹄において最上級の能力を有することを意味します。この度ご紹介します株式会社菅原道北削蹄所（以下、菅原道北削蹄所）菅原洋充会長はこの指導級認定牛削蹄師として、創業から25年、現在は18名の若い職人とともに北海道道北地域を中心とした多くの牧場で牛の健康を守っています。

▲ 菅原洋充会長（左）と本会松尾職員（右）

日本伝統の削蹄方法

削蹄には保定、簡易枠場、油圧シュートといった3種類の方法がありますが、菅原道北削蹄所ではこの3手法を牧場の形態、希望により使い分けています。現在多数を占める削蹄方法は油圧シュートという機械式の枠で牛を固定しグラインダーを用いて削蹄するもので、主に大規模な農場やフリーストールの農場において用いられています。牛ががっちりと固定されるので、安全でかつ少人数で効率的に削蹄を行うことができます。一方、保定は日本伝統の削蹄方法ともいわれ、人力で牛の足を持ち上げて鉈や鎌で蹄を

▲ 後ろ足の削蹄では一人が牛の体を押して安定させておく

削る削蹄方法で、タイストールの牧場のほか形態にかかわらず保定を希望する牧場もあります。牛を必要以上に動かさず短時間で行えるため牛に負担がかからない一方、牛1頭の削蹄につき2名以上の人員が必要となり、同時に高い技術が必要とされます。菅原道北削蹄所は、スタッフのほとんどがこの「保定削蹄」を行うことができる職人の集まりです。

迅速に、的確に ～牛にストレスのない削蹄を～

「朝の搾乳終了後から現場に入り、夕方の搾乳までには確実に終了できるよう牧場の規模に合わせてシフトを組んでいます。削蹄によるストレスは乳量低下につながりますので、いずれの方法においても牛にストレスをかけずに〝早く通常の生活に戻してあげること〟が重要です。迅速に、的確に行うことを私含めスタッフ全員で心掛けています。

現場では、牛舎環境、牛の大きさ、立ち方などさまざまな角度から総合的に判断し、蹄の大きさを決めます。負面（地面と蹄底が接触する部分）作りでは、蹄病の誘発部位に外部刺激が少なくなるように削ります。蹄は切りすぎても牛に負担になるばかりか、それにより立てなくなってしまう場合もあるので、正確な判断が必要となります。牛の健康状態は蹄に顕著に現れますので、削蹄をしながら蹄の状態を確認し、蹄病表を作成しています。牧場によっては蹄病率を指標に餌の配合を変更されますので、正確な情報をお渡しできるように努めています。蹄の密度など削蹄師の感覚で分かるものについては口頭で説明することでより詳細な蹄の状態をお伝えできますし、削蹄師の大切な仕事である酪農家さんとコミュニケーションの時間にもなります。作業終了後は事務所に戻り、作業着の洗濯と道具の手入れを行い1日が終了します。2軒以上訪問する場合は、感染性蹄病の拡散予防のためすべて着替えてから次の現場に入るように徹底しています。」

▲ 副蹄を切るけづめ落とし6種類の道具を瞬時に持ち替えて作業を行う

▲ 前足の蹄は後ろ足よりも固く最も鋭い道具を使用するため、熟練の技が必要

取材させていただいたのは保定削蹄の現場であり、スタッフが6種類もの道具を駆使し次々に削蹄を行っていきます。声を掛け合い牛の足を持ち上げて鎌で削る様子はまさに職人技で、緊張感はあるものの和やかな雰囲気でした。

「保定削蹄は3人1組が基本で、2人が削蹄、1人は補助となります。削蹄中は周囲に不注意になるので、補助役は周囲に注意を払い事故が起こらないように立ち回る重要な役割であり、削蹄師は仲間を信じて作業に当たります。そのことを理解すると、自然にチームワークや信頼関係が生まれますね。」

〝やってみよう〟を受け入れて育てていく

菅原道北削蹄所は、取材に同行した本会道北事務所松尾職員の前職場でもあります。その後縁あって本会に転職しましたが、現在も同業者として情報交換をしたり気にかけてくれるそうで、「酪農業界

で働くきっかけをくれた。地元の若者が働く場所として〝まずはやってみよう〟で受け入れてくれ、厳しく温かく育ててくれる場所です」と話していました。地元での採用の他にも、同社を取材したテレビ番組を見て道外から入社したスタッフや、将来は地元で保定削蹄を行うために九州から修行に来ているスタッフもいます。職人の厳しい世界なので離職も当然ありますが、伝統技術を学び酪農家さんの役に立つやりがい、仲間との信頼関係、そういった魅力のある職場なのだそうです。

「現場では自分の牛のように大切に扱うこと、目を見て笑顔で挨拶すること。スタッフはこれらをしっかりと実践してくれて、お客様にも満足いただいています。うちは人も自慢です。蹄が良くなったと言われるのはもちろんですが、私がすべての職場に行けるわけではないので、スタッフが褒められることはとても嬉しいです。」そのように語る菅原会長からは初対面でも温かい人柄が伝わってきました。

▲ 道北で牛柄のトラックと言えば菅原道北削蹄所！
スタッフによるペイントでよく見ると柄も異なる

技術を受け継ぎ、必要としてくれる酪農家さんの役に立ちたい

「未経験のスタッフにはまずは保定の仕方を指導します。牛舎の構造や環境により保定の方法が変わるため、様々なロープワークを学び同時に牛の動きを学びます。それから足を上げる練習に移りますが、安定して上げることができないと道具を動かせませんので、早い人でも削蹄を始めるまでに1～2年はかかります。油圧シュートによる機械削蹄ではこれらの工程はなく安全で効率的な手法ではありますが、タイストールを始め必要としてくださる酪農家さんのためにも、今後も保定削蹄を続けていきたいと思います。道北はまだまだ家族経営・タイストールの酪農家さんも多いので、技術を磨き、受け継いでいけるようにこれからも若い削蹄師とともに自分も勉強し続けていきたいです。同時に、各地から学びに来てくれる若者にこの技術を伝えることも自分の使命だと思っています。」

1牛の蹄を理解して削蹄できるように

「私たちの仕事は、牛にとって適正な蹄を整えることで乳量の増加、受胎率の向上につなげ、結果として牛の耐用年数が上がり酪農家さんに儲かってもらう仕事です。牛を大切に扱っている牧場は蹄を見れば分かります。酪農経営も多様化し経営方針もさまざまではありますが、牛が健康で良いパフォーマンスをしている牧場が永く続いていくことを望みます。そして、私たちはこれからも縁の下の力持ちとして酪農家さんを支えていけるよう、若い削蹄師には、削蹄技術向上もさることながら、削蹄する前のその環境で、体格・肢勢・蹄の形、全てを総合判断してから牛の蹄を理解して削蹄できるよう成長してもらいたいことを伝えていきます。」

▲ 年に2回発行している削蹄通信。酪農家さんとのコミュニケーションツールになるようにとのこと

父の日に牛乳を贈ろう！ 前編

今年も全国各地でキャンペーンを実施！

全国酪農青年女性会議による「父の日に牛乳を贈ろう！キャンペーン」が、今年も全国各地で開催されました。今年も５月末から父の日である6月16日㈰を中心に、各地域において特色のある活動を全国で展開しました。２カ月に渡って、各地で実施されたキャンペーンの一部をご紹介します。

北海道

●北海道酪農青年女性会議

北海道酪農青年女性会議では江別市と千歳市の幼稚園・こども園合わせて３園を訪問しました。今年も着ぐるみのはなこちゃんが登場すると大きな歓声があがり、子どもたちの元気な声とともに牛や牛乳に関するクイズを行いました、質問コーナーでは「牛さんはどうして白と黒なの？」「どうしてモーとなくの？」など、子どもたちからのびっくりするほど率直な質問に委員が固まる場面も見られ、普段は考えもしない牛のことについて考えさせられました。牛が草を食べること、牛乳を出してくれることは皆良く分かっていましたが、「牛乳から何ができるかな？」と言うクイズでは、「ポテト」に手を挙げる園児もいました。来年は全員「チーズ」に手を挙げてくれるように、これからもこのような活動を続けていきたいと思います。

宮城県

●東北酪農青年女性会議

開催日：令和６年６月８日㈯

場　所：せんだい農業園芸センター みどりの杜（宮城県仙台市）

「父の日に牛乳を贈ろう！」活動として、ツール約700セット（ミルメーク、チラシ）を配布しました。来場者の方々からは「ミルメーク懐かしい」「帰ったら牛乳飲みます」と温かいお声をいただきました。

愛知県

●中部酪農青年女性会議
【東海農政局 局長への牛乳贈呈式】の開催

中部酪農青年女性会議（西尾直樹委員長）は、６月１１日㈫に東海農政局を訪れ、森重樹東海農政局長に牛乳を贈呈し、牛乳の消費拡大のPRを行いました。

情報交換の場では、ここ数年の飼料や酪農資材及び燃料等の高騰などで酪農情勢が逼迫していることを報告しました。

あわせて本年度の当会議の活動計画、名古屋市で開催される全国酪農青年女性酪農発表大会など多岐にわたり情報交換を行いました。

東海農政局の森局長は酪農に対し大変関心を持っておられ、６月17日㈪には西尾委員長の牧場に出向き、牧場視察を兼ねた情報交換もされました。

東海農政局には、県民が自由に出入り出来る「消費者の部屋」があり、そこには毎年この時期、牛乳乳製品をアピールするために展示を行っていただいています。

中部酪農青年女性会議は安全面に配慮しながら今後とも積極的に酪農家のために啓蒙活動を推し進め、また良質で安全な牛乳の安定供給と牛乳の消費拡大に努めて参ります。（S.M）

▲ 牛乳で乾杯

▲ 牛乳贈呈

三重県

●三重県酪農協青壮年女性部
【三重県知事への牛乳贈呈式】の開催

三重県酪農協青壮年部（庄司睦部長）、女性部（髙橋明美部長）の代表３人と関係者が６月１１日㈫に三重県庁を訪れ、一見勝之三重県知事に牛乳を贈呈しました。

コロナ禍の影響等により、三重県知事への牛乳贈呈は４年ぶりの開催で、数年続いている飼料や酪農資材、燃料・光熱費の高騰により、酪農の状況は大変逼迫している現状を説明し、その解決策の一つとして牛乳乳製品の拡売につながる支援をお願いしました。

庄司睦部長が「健康によい牛乳をたくさん飲んで日々の激務の疲れを癒されて下さい」と挨拶し、一見知事からは「子供たちの健康のために貢献してもらっているため、今まで通り、情熱をもって牛乳を生産してほしい」、また「父親が長生きの秘訣は、幼少期から牛乳を飲んでいるからだと話をしている」とのお言葉を頂きました。（U.R）

▲ 牛乳贈呈式

▲ 一見知事（中央右）と庄司部長（中央左）

岐阜県

●岐阜県酪農青年女性会議
【岐阜県知事への牛乳贈呈式】の開催

岐阜県酪農青年女性会議（西尾直樹委員長）は、６月４日㈫に岐阜県庁を訪れ、古田肇岐阜県知事への牛乳贈呈式を行いました。

毎年、岐阜県産の牛乳を贈呈しており、今年は有限会社牧成舎（全酪連会報2023年７月号「見て歩紀」掲載）の牛乳を贈呈しました。古川知事は、腰に手を当てたスタイルで牛乳を一気に飲み干されたあと、様々な牛乳乳製品の種類について質問をされていました。

ここ数年はコロナ禍による消費減退や、世界各地での紛争や円安による飼料や酪農資材及び燃料の高騰等、大変厳しい酪農情勢の説明を行い、牛乳乳製品の拡売につながる支援をお願いしました。

また、７月には名古屋市において全国酪農青年女性酪農発表大会が開催され、全国から酪友が集まるため、交流を深めることなどの情報交換を行いました。（M.M）

愛媛県

●愛媛県酪農経営者協議会

６月14日㈮関係者６名が愛媛県庁を訪問し、県知事へ県産牛乳・乳製品の贈呈を行うとともに理解醸成活動報告や、各地域での消費拡大活動報告、酪農情勢下における国・県からの支援への感謝の意を示しました。

鳥取県

●大山乳業農業協同組合 青年部会・酪農女性部

日時：6月1日㈯・22日㈯
場所：みるく館フェスタ
（大山乳業農業協同組合本所工場）

●山口県酪農青年女性会議

日時：6月16日㈰
場所：「MILK●JAPAN in しものせき」
（ボートキッズパーク モーヴィ下関）

山口県

夏場のエサ管理

この数年、夏場の猛暑日、さらにその上の酷暑日という言葉もよく聞くようになりました。わたしたちの生活の中では「エアコンをつけましょう」、「栄養バランスに気をつけましょう」、「水分・塩分補給をしましょう」などの注意が呼びかけられています。暑さに弱い牛ちゃんはどうでしょう?牧場での対策は「換気扇をまわす」、「エサの質を変える」、「重曹、酸化マグネシウム、ビタミンの増量」などが夏の定番ですね。しかし、年々暑くなってきている傾向です。わたしたちがこれまで以上に夏対策を意識するのと同じように、牛ちゃんの夏対策についても意識して少しでも改善することが必要です。そこで、エサの在庫管理「先入れ・先出し」に注目しました。1年を通じて発生する配合飼料の品質トラブルは、カビ発生、固まり、虫発生などが全体の約7割で5月～10月に多発しております。また、これらのトラブルは長期保管が主な原因となっております。先入れ・先出しする場合、紙袋は製造日の古い順に使い切ることで管理しやすいのですが、タンク保管の配合飼料については少し注意が必要です。タンクの構造上、流れにくい部分で配合が停滞しやすいので夏場は定期的にタンク内を空にしたり清掃することで長期保管になるのを防ぎます。清掃の実施目安は夏場で月1回です。牛ちゃんの生産性をサポートする取り組みです。ぜひ実施をお願いします。

事例紹介（夏場の取り組み）

＊工場からの飼料引き取り

・夏場は冬場よりも回数多く引き取りしている（1か月分は引き取らない）。

・ウイング車で引き取った場合は可能な限り早めに倉庫入れし、当日荷下ろしできない場合は車ごと倉庫内に入りサイドパネルを開けて熱を逃がしている（ウイング車の荷台にこもった熱で製品温度が上がると品質が低下しやすい）。

＊会員倉庫・SPから牧場への飼料納品

・夏場のタンク投入は在庫量が0・5～3日分になってから行っている。

・タンク投入前にゴムハンマーでタンク外側を軽く叩き内側に付いている飼料を落としている。

＊タンク清掃

・梅雨が明けたらタンクを一旦空にするというルールを決めており、生産者と運送業者が連絡しあってタンク清掃と飼料投入のタイミングを調整している。

・カビや虫が発生した際にはタンクを空にし洗浄するのが効果的です。

夏場のエサ変敗は無駄なコストになります。こまめなタンク清掃や配送を心掛け、エサの変敗を防止しましょう。

夏場対策のパンフレットをつけましたのでお使いください。

夏場対策のお願いについて

牛ちゃんにとって、梅雨～真夏～10月までの5カ月間は、高温・多湿や寒暖差によるストレスでとても過酷な時期です。エサの管理にも工夫が必要です。

物流段階　**製品温度を上げない工夫で品質低下を抑える**

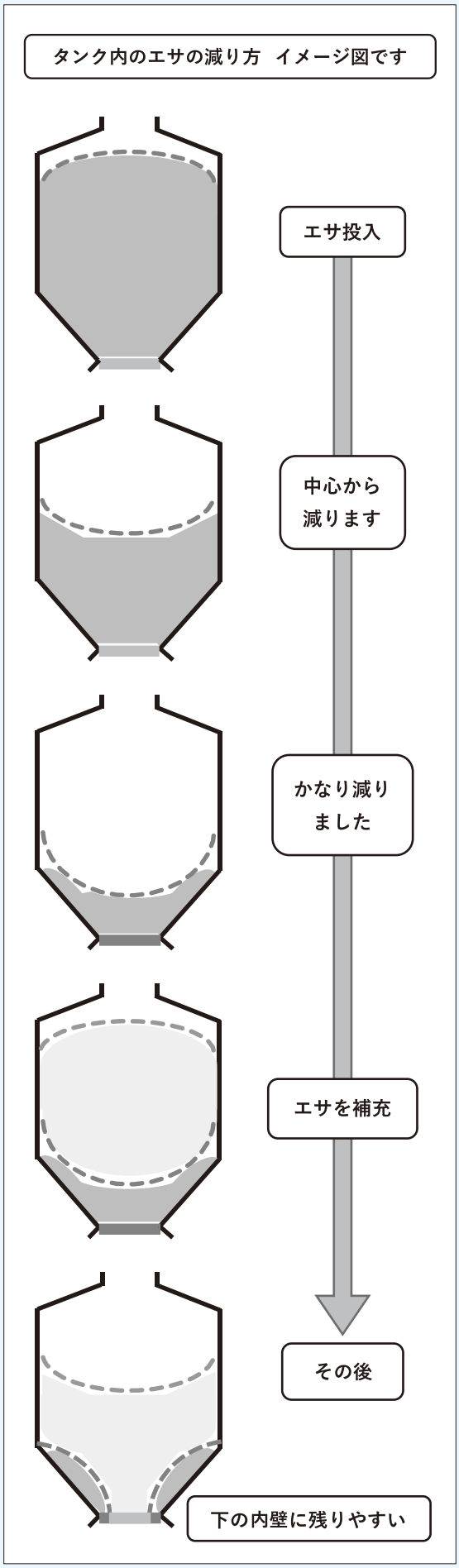
- 製品の温度が上がると品質低下が加速した事例があります。飼料引き取り後は可能な限り早く倉庫に入庫または牧場納品をお願い致します。

【対策例】ウイング車で引き取りされ、当日荷降ろせない場合、サイドパネルを少し開けて熱気や湿気を出す工夫をしている事例があります。製品が早く冷めて品質低下を抑えられます。

タンクのエサ管理　**清掃の実施でタンク内での停滞を防ぐ**

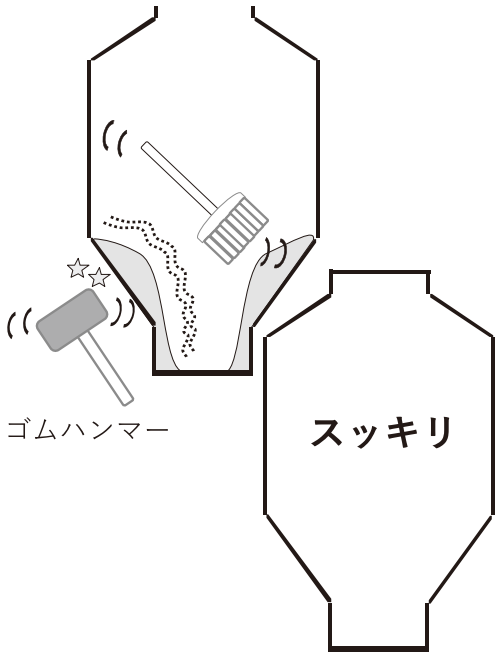
- 毎年、タンク内停滞による品質トラブルが発生しております。夏場は月1回の清掃が効果的です。

【対策例】梅雨明けにタンク内を空にする取り組みの実施でエサがタンク内で固まることが無くなったとの報告あります。



10月まで要注意！

飼料タンク内での停滞を解消するため、投入前のエサ落としや清掃が必要です（月1回）。



▲ 夏場のタンク清掃をぜひ励行お願いします

第50回 らくのうこどもギャラリー

入賞作品紹介

「らくのうこどもギャラリー」に多数ご応募いただきありがとうございます。
総応募点数は255点でした。その中から12点の入賞作品を選出させていただきました。

特選

「元気な牛」

会津若松市立鶴城小学校 6年（東北）
菊地 遥空

清々しい青空をバックに下から見上げられた牛さんが描かれています。今年のこどもギャラリーで傑出して目を引いた作品です。柔らかなタッチで描かれた牛さんの毛並みや、流れを感じさせる雲の描写など、画面全体に重厚感がありながら繊細さも兼ね備えた素晴らしい作品です。

総評

今年も「らくのうこどもギャラリー」に多数ご応募いただきありがとうございます。本年度は、ギャラリーの開催第50回の節目の年です。心からお祝い申し上げます。

今年の総応募数は、昨年の倍に近い255点もの作品が寄せられました。ちぎり絵のような細かな紙を張り巡らせた作品、ドロッピング（インクを飛ばす技法）によって幾重にも色を重ねた作品、漫画のようなキャラクターを押し出した作品、スポンジに色を含ませスタンプを施したパターンを感じさせる作品など、意欲的な作品に目を奪われました。特に年少さんの作品は、溌剌とした元気さを感じる作品が多く、充実していたと思います。

そんな中で第50回記念にふさわしい特選に選ばれた作品は、菊地遥空くんの「元気な牛」でした。清々しい青空をバックに描かれた元気な牛に、一瞬で心を掴まれました。親しげにこちらに近づき何かを語りたがっているかのような牛さんの表情が印象に残りました。入選1の藤谷桃音さんの「乳牛の親子」は、絵の構成力、バリエーション豊かな筆先の丁寧な描写、色彩感覚に溢れる画面など、完成度の高い作品に感心しました。入選2の榎本美幸さんの「双子のツーショット」は、色鉛筆で描かれた牛さんの正確なデッサン力が優れていました。またタイトルにふさわしい説得力ある画面構成も良かったです。上位3点は、どれも力強く魅力に溢れる作品であり、僅差であったと思います。

ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルによるガザ地区の戦闘、パンデミック後の円安と物価高騰による生活困窮、2024年元旦の能登半島地震など、国の内外で先の見えない不安定な今日ですが、絵画をはじめ芸術といった人の心を扱う世界においては、せめてもの平穏や自由な発想を保ちつつ、お互いを尊重できる環境を作っていきたいものです。

最後になりましたが、「らくのうこどもギャラリー」に仕事場を解放し牛さんとの触れ合いの機会を提供していただいた酪農家の皆様、各地域でご協力いただいた関係者や保護者の皆様、ご指導いただいた美術の先生方に深く御礼申し上げます。来年も多くの魅力的な作品に出会えることを審査員一同楽しみにしています。

宮島　径／写真家
（みやじま・けい）

1967年　長野県生まれ。
1991年　東京藝術大学美術学部芸術学科 卒業。
1993年　デーリィマン写真部入社
1997年　フリーランス・カメラマンとなる。

個展：2002年　「surface」（PLACE M、東京）
2006年　「世界のしくみ」featuring 麻里布栄（PLACE M、東京）
2010年　「日照時間／ The Daylight Hours」（ギャラリー蒼穹舎、東京）
2016年　「One Another」（喫茶&ギャラリーウィリアムモリス、東京）
2019年　「裏山現像」featuring 麻里布栄（PLACE M、東京）

浅野　智／画家
（あさの・さとし）

1964年　神奈川県生まれ
1993年　東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻（油画）修士課程　修了
2000年　第11回　関口芸術基金賞　優秀賞
2001年　第12回　関口芸術基金賞　大　賞
2016年　第1回　枕崎国際芸術賞　協賛賞
2017年　文化庁　文化芸術推進事業　ドローイングの現在 NPO 法人withART　代表理事

入選3

「たべすぎなうし」

田原市立泉保育園 ６歳（中部）
伊藤 聡一

ペンや鉛筆を駆使して、4頭の牛さんを個性豊かに描いています。スピード感のあるタッチが夢中で食事をしている4頭の様子を上手に表しています。まるで絵本の1ページを見ているかのような物語性を感じる躍動感ある作品に仕上がりました。

入選1

「乳牛の親子」

会津若松ザベリオ学園小学校 ４年（東北）
藤谷 桃音

牧草地でくつろぐ牛さん親子を水彩絵具を使った繊細なタッチで表現しています。近くで見ると瞳の周りの細いまつげまで丁寧に描いています。桃音さんは絵を描くことが本当に好きなのですね。形や構図、色彩感覚、描写、そしてテーマ性に至るまで全てにおいて完成度が高い見応えのある傑作です。

入選4

「牛の顔と体」

佐世保中央保育園 ５歳（九州）
大瀬 柚希

ヒゲを生やしたようなお顔と体に古代文字を思わせる斑紋のある牛さんが、力強いクレヨンの黒色で描かれた作品です。画面右からひょっこりと顔を覗かせる赤い太陽も存在感があります。背景の青色とピンク色の水彩絵具のにじみ具合は、絵に不思議な演出効果を与えていて、味わい深い作品です。

入選2

「双子のツーショット」

岩国市立錦中学校 ２年（西日本）
榎本 美幸

双子の子牛さんの様子を、色鉛筆で丁寧かつ正確に描けましたね。牛さんのお顔の表情の違いも描き分けられているところが見事です。牛舎内の描写は、定規できれいに引いた柵の線に面白みがあり、また床面に牛さんの影を描くなど、完成度の高い作品に仕上がってます。

秀作3

「私のおっちゃんの「うしのさくにゅう」」

淡路市立北淡小学校 ４年（西日本）
上田 楓

搾乳機に繋がれて大人しく前を向く牛さんを、鋭い観察力とハイセンスな画面構成で描いてます。近くで見ると牛さんは目だけこちらを向けていて、気にしてる様子が描かれています。牛さんの体形や柄、鼻環や鎖を丸みのある曲線で描き、鉄柵や背景の柱などを直線で描いてバランスよく画面を構成しています。

秀作1

「ぼくの大好きな牛乳と赤べこ」

郡山市立芳山小学校４ 年（東北）
小野 翔大

牛乳を持って微笑む翔大君の横には、なぜか福島の民芸品である巨大な赤べこが描かれています。更にこちらを見つめるホルスタイン牛や、遠景には寝そべるジャージ牛などが配置され、構図も発想もとてもユニークな作品です。多種多様な生き物やお土産がひとつの空間に並ぶ非現実感が、この絵の最大の魅力です。

ファミリー賞1

「子牛も私も牛乳大好き」

本宮市立本宮小学校 ５年（東北）
伊東 怜美

子牛さんに牛乳をあげる怜美さんの優しい表情が印象的です。一番手前の主人公たちを大きく描き、遠くに行くにつれて牛さんたちを小さく描く遠近法をうまく活用しています。背景にいる簡略化された牛さんも魅力的です。牧場の広大な空間がうまく表現できましたね。

秀作2

「きゅうしょくをたべてるよ」

西尾市立 室場保育園 ５歳（中部）
石川 幹大

迷いの無い線で大らかに伸び伸びと描いています。つぶらな瞳が可愛く描けましたね。背景の空色にピンクの鼻と口からはみ出た草の緑など色彩が柔らかで、ゆったりとした時間の流れを感じる、ほのぼのとした作品になりました。

あすなろ賞2

「牛乳ありがとう」

あさひ保育園 5歳（九州）
小川 勇心

「牛乳ありがとう」と題された勇心くんの作品は、画面いっぱいに描かれた牛のおっぱいと牛乳が魅力となってます。また牛乳そのものを描いた作品はとても珍しいです。子供ならではの大胆で思い切った描写は、絵を描くことの素直な喜びが伝わってきて好感が持てました。

ファミリー賞2

「ボクと牛の思い出」

七合小学校 3年（関甲信）
興野 蒼季

大きな牛さんの背に乗って自慢げにニヤリと笑った表情が良いですね。牛さんの描写が細かくリアルです。スナップ写真を基に描いているのでしょうか。大切な瞬間を絵に描いて表す事は蒼季君の中で写真で残す事とはまた違った思い出となっていく事でしょう。

あすなろ賞1

「かっこいい牛」

認定こども園北陽幼稚園･第2北陽保育園 5歳（北海道）
髙城 葵

水彩で描かれた青空を背景に、クレヨンを使って強く黒く描かれた牛さんが堂々とした存在感でこちらを向いています。足元の干草や土の表現が色の層となって画面を彩っています。題名どおり、「かっこいい牛さん」に描けましたね。

日本酪農見て歩紀 No.373

松田牧場
石川県珠洲市

震災から半年 被災地の酪農家の今までと未来

▲ 松田徹郎さん

地域の紹介

石川県珠洲市は能登半島の先端に位置し3方向を海に囲まれた、人口約13，000人の自然豊かな市です。2024年1月1日に発生した能登半島地震の震源地となり、発生から約半年たった今も被害が色濃く残っています。

今回ご紹介する松田牧場は石川県酪農業協同組合（高来直人組合長）の組合員であり、石川県酪農業協同組合の出荷戸数は28戸、被災による休業が2戸（令和6年5月末現在）です。

牧場の概要・沿革

松田牧場は昭和40年後半に乳牛の多頭飼育と専業化による効率化推進を目的として国営農地開発事業により整備された珠洲市唐笠町の八ケ山酪農団地にあり、晴れていれば富山湾越しに北アルプスを望める雄大な土地に牧場を構えています。

▲ 牧草地越しの富山湾

松田さんはもともと牧場を営む家系の生まれではなく、新規就農をされた方です。獣医師のお父様の影響で牛に興味を持ったことがきっかけで、長野県農業大学校に入学しました。卒業後は長野県の酪農家のもとで1年弱の研修を行い、その後は石川県河北潟の酪農家のもとで3年間従業員として働き経験を積んだ後、酪農家を目指して石川県内の廃業した酪農家の牛舎などを見て回りました。資金面や周辺の環境に加えて、松田さんが理想とする酪農経営を実現できそうだという理由から、2014年に珠洲市唐笠町にある牛舎の元所有者と直接交渉を行い畜舎などの設備を購入し、翌年に松田牧場株式会社として法人化をしました。しかし、酪農家として生乳出荷に至るまで思い描いていた通りにはなかなかいきませんでした。自給飼料のストックの作成や牛舎の補修等に時間を費やし、近隣の廃業した酪農家から乳牛を購入して搾乳を開始するまでに4年かかりました。やっとのことで生乳出荷にこぎつけた松田さんですが、試練はまだまだ続きます。初めに導入した乳牛の乳房炎が想定していた以上に酷く、乳房炎治療や乳牛の更新など体細胞対策に追われていました。頻繁に体細胞格差金対象となったこともあり、生乳出荷を始めてから2か月で一時出荷を休止し、約1年の時間をかけて搾乳牛を全頭更新するなど、生乳集荷再開に向けて環境を整えていったそうです。就農当初は約10頭の和牛繁殖からスタートした経営が、今は和牛60頭、ホルスタイン50頭（現在の搾乳牛は約25頭。震災直後は17頭にまで減少。）になりました。

▲ 牛舎内

▲ 牛と触れ合う松田さん

特徴

① 自給飼料

松田さんは就農する際、珠洲の土地にこだわりました。それはこの牧場の特徴ともいえる広大な草地に魅力を感じたからだそうです。松田さんは牧場を経営するにあたって自給飼料の確保が必須との考えをもっており、就農後すぐに牧草地の状態確認を実施し、これまで簡易更新しかされていない雑草が混ざった牧草地を深耕して理想とする採草地を目指して努力を続けています。初めは約10ヘクタールの作付面積でしたが、廃業した酪農家の採草地を購入したこともあり、現在は23ヘクタールにまで拡大しています。草種は就農当初から変わらずイタリアンライグラスとソルゴーの二期作を行っています。輸入粗飼料の価格が上がった今、その選択は正しかったと感じているそうです。

▲ 広大な牧草地

② 放牧

松田牧場の特徴である広大な土地の利用方法として、放牧も挙げられ

ます。現在は和牛と乾乳牛の放牧を行っています。松田牧場は高台にあるため、場所によっては急傾斜のところもあり、トラクターによる収穫作業が困難な草地で放牧を行っています。傾斜のきつい場所で放牧している理由を松田さんに聞くと、急傾斜の土地で放牧した牛は足腰が強くなり病気になりにくい体質になるそうです。また、「牛自ら堆肥をまきに行ってくれるから楽なんです。」と冗談を交えつつおっしゃいました。対して大変な点もあるそうで、「放牧地を囲っている電気柵を牛が破ってしまったときは捕まえるのに苦労しました。また、急傾斜のため牧草収穫時にはせっかく作った牧草のロールをどこかへ転がしてしまうことも度々あります。」と笑っておられました。

▼ 震災の影響で傾いた牛舎の外観

▲ 傾いた牛舎は補強されていました

震災前後での酪農に対する思い

今年の年始に発生した震災を経て、酪農に対する思いを伺いました。酪農をしていて達成感を得られるのは分娩がうまくいったときで、他にも牧場にいる動物たちや広大な自然を通して地域の子供たちと教育的な交流ができることだと教えてくださいました。実際に震災前には地元の幼稚園児から高校生までの子供たちを牧場に招いたことがあるそうです。このような経験が子供たちの可能性を広げていってくれるとおっしゃいました。また震災後は特に、教育的な活動が町づくりや復興にもつながるのではないかとも考えておられます。

酪農をしていて苦労した点についても聞かせていただきました。先の項目にも記したように、営農を軌道に乗せるまでの牛の導入や体細胞対策などに追われていた頃が大変だったと松田さんは振り返ります。また、飼養頭数が増えるにつれて労働力の確保の大切さを感じられたそうです。元々松田さんのほかに、従業員や派遣、パートの方々を含め計6人で営農されていましたが、震災後は二次避難のため3人が抜けてしまい、今は残った3人で営農をせざるを得ないといいます。さらに震災直後に停電・断水が発生し、牛の飲み水確保のため近くの沢へ汲みに行って急場を凌いでいましたが、牛に十分な水を与えることができない日々が続きました。その後、県や関係団体の救援活動として給水作業が開始され、必要最低限の水を確保することができるようになりました。取材に伺ったときも断水は解消しておらず、通水までの予定も不透明な状況が続いていますが、関係団体が実施していた給水作業は珠洲市が引き継ぎ、水道復旧まで継続実施されることとなっています。そのため通常の業務に加え、給水タンクから水の運搬もしなければならない状況が続いています。労働力の確保のため、珠洲市に在住の震災により仕事を失ってしまった人に声をかけ、一緒に作業をすることもあるそうです。

今後の酪農経営について

震災の影響により大変な状況が続く松田さんに、今後のビジョンは持たれているのか、お話を伺いしました。

就農時から八ケ山酪農団地で廃業した酪農家の牛舎を購入することで規模を拡大し、4棟になった牛舎は、震災によりそのうちの2棟が傾いてしまったといいます。その牛舎を実際に見せていただきました。応急処置として補強がされ

てはいるものの、いつ崩れてもおかしくない牛舎でこのまま営農を続けるわけにはいきません。「まずは傾いた2棟を取り壊して新しい牛舎を建て、現状の回復を図りたいです。そして徐々に発展した経営を目指していければ。」と語ってくださいました。ただ、そこで問題となるのは費用の面です。新牛舎建設とその他機材等にかかる経費は国からの助成もありますが、それでも自己負担額は概算で約8，000万円になるそうです。別の場所へ移転することも考えましたが、さらに費用がかさむことや珠洲ほど広大な牧草地を確保できないこともあり、今の土地で建て直す方法に決めました。ただでさえ酪農を取り巻く情勢が厳しい中、震災が重なり、これだけの額を捻出するのは相当厳しいと顔をしかめられました。

新牛舎建設のため、松田さんはクラウドファンディングに挑戦することに決めました。6月末ごろから開始しており、最終目標額は3，000万円だそうです。「途中で心が折れてしまった仲間もいましたが、私は珠洲で酪農を続けていきたい。」と語られます。

松田さんは元々SNSを通じて酪農情報の発信をしていた影響もあり、震災後には全国から直接義援金の振り込みをしたいとの申し出を受けられていました。これに対して松田さんは、その金額を石川県酪農業全体の義援金口座に振り込みをしてもらうよう御願いをされていたそうです。今はそちらが一旦落ち着いたため、次はご自身の牧場の建てなおしに力を入れていきたいそうです。

▼ 震災の影響で崩落した道路

▲ 道路が崩落していたため、隣の牧場までたどり着けなかった

最後に

今回松田さんは、人手不足に加え断水の対応や草地管理の仕事に追われる中、取材に快く応じてくださいました。改めて感謝申し上げます。取材からはご自身の牧場の復旧だけでなく、県内の被災した酪農家のことや珠洲市や能登地域の復興にまで目を向けられていることが感じ取れました。数年後、新しい牛舎にて酪農を続ける松田さんに再びお話を伺わせていただけたらと思っております。松田牧場の今後ますますのご発展をお祈り申し上げます。

クラウドファンディングが始まりました。

➡ https://camp-fire.jp/projects/view/764089

インスタグラム

TETSUROU_MATSUDA

▲ 馬もいます

東京支所発

盛況!千葉県「ミルクフェスティバル2024」今年も開催!!

『牛乳の日』である6月1日㈯と2日㈰の２日間にわたり、千葉ポートパーク円形芝生広場（千葉県千葉市）にて「ミルクフェスティバル2024」が開催されました（主催 千葉県牛乳普及協会（会長：上原啓資）、千葉県酪農農業協同組合連合会（代表理事会長：髙橋秀行））。開催初日は晴天に恵まれ、２日目は終了間際に降雨があったものの１４,000人規模の来場者がありました。「お遊びゾーン」、「食と販売ゾーン」、「ふれあいゾーン」、「学習ゾーン」、「体験ゾーン」からなる５つのゾーンでは、牛乳について『遊んで』・『学んで』・『体感できる』様々なイベントが催されました。クレイングランスを敷き詰めた『牧草ベッド』では子供だけでなく大人も夢中で飛び込んでおりました。『ビートパルプの重量当てコーナー』では普段触れることのない牛の飼料に対し酪農家顔負けの真剣な面持ちで計量しておりました。牛乳・乳製品の試飲や乳製品の販売コーナー、キッチンカーなど多くの出店があり、来場者の「お腹」と「気持ち」を乳製品で満腹にしておりました。働く車コーナーでは「つなぎ」に着替えた子供が満面の笑顔でトラクターと写真撮影をしておりました。ステージでは千葉県を代表するマスコットキャラクター「チーバくん」とバターを作る催しもあり皆さん一心不乱にバターを作っておりました。普段見ることのない『搾乳牛』や『子牛』なども見ることができ消費者と生産現場をつなぐ貴重な機会となりました。飲用向けなど需要落ち込みがみられる情勢にありますが、酪農業界が一丸となり乳製品をアピールすることの大切さと牛乳・酪農が消費者を笑顔にする力があることを改めて実感できる２日間となりました。（K.Y）

▲ 秘技頭絡投げ!!

▲ ビートパルプの重量当て、分かれば君も酪農家！

◀ ポートタワーを背景にトラクターと記念撮影♪

▲ 栄養満点クレイングラスのフカフカベッド♪

▲ 千葉市の中心地に本物来場！

酪農部発

全国農協乳業協会「令和６年度定時総会」の開催について

酪農部が事務局を担っている全国農協乳業協会（会長：大久保克美 東毛酪農業協同組合代表理事組合長）において、令和6年度定時総会を令和6年6月13日（会場：KKRホテル東京）にて開催いたしました。

▲ 大久保会長 挨拶

当日は、大久保会長より最近の酪農情勢を交えた挨拶から始まり、議題としては、「【第１号議案】令和５年度事業報告及び決算の承認に関する件」について、「【第２号議案】理事の退任による補欠選任の承認に関する件」が協議され、原案通り可決承認されました。結びに、有田副会長（よつ葉乳業株式会社 代表取締役社長）より、閉会の挨拶を頂戴しました。

その後、懇親会が開催され、来賓としてお越しいただいた、厚生労働省健康・生活衛生局食品監視安全課課長補佐 川越様、消費者庁食品衛生基準審査課課長補佐 今西様並びに農林水産省畜産局牛乳乳製品課課長補佐 白尾様よりご挨拶を頂戴しました。また、樋口副会長（日本酪農協同㈱代表取締役社長）の牛乳で乾杯の発声とともに、今後の牛乳乳製品の消費拡大に協会会員一丸となって取り組むことを祈念いたしました。

今年度も、不安定な世界情勢下、酪農生産現場や乳業者においても厳しい経営環境が続く中ではありますが、引き続き酪農家に一番近い農協乳業を支えるべく、全国農協乳業協会も活動に邁進していきたいと思います。（Y.A）

▲ 総会風景

▲ 牛乳乳製品消費拡大を祈念し、牛乳で乾杯をしました

酪農部発

「第６回 らくのうマルシェ」を開催しました

2024年６月１日㈯、酪農会館エントランスで『第６回 らくのうマルシェ』が開催されました。当日は天候に恵まれ、多くのお客様にご来場いただきました。

同日は（一社）Jミルクが推進する「牛乳の日」であり、全国酪農青年女性会議の「父の日に牛乳（ちち）を贈ろう！」運動と連動する形で開催し、会場内に牛乳・乳製品の試飲・試食ブースを設け、今回は全国から取り寄せた55アイテムの乳製品が並べられました。

次回のらくのうマルシェは11月に開催を予定しております。

お楽しみに！　（M.A）

名古屋支所発

岐阜県で「牛乳の日」のイベントを開催

６月１日㈯の「牛乳の日」にあわせて、オアシスパークにて6月1日㈯・２日㈰の２日間にわたりイベント（岐阜県酪農農業協同組合連合会主催）が開催されました。今回のイベントでは、地元牛乳の試飲や、模擬搾乳体験に加え、クイズラリーにも挑戦することができました。来場した方々は、楽しそうに模擬搾乳やクイズラリーに参加しており、「冷たくておいしい！」と牛乳をごくごく飲まれていました。　（F.S）

名古屋支所発

愛知県酪農農業協同組合「６月１日 牛乳の日キャンペーン」開催

牛乳の日である６月１日に、愛知県酪農農業協同組合主催のキャンペーンを行いました。キャンペーンの趣旨は「６月１日は牛乳の日、６月は牛乳月間」をPRするとともに、牛乳の良さを啓蒙・啓発することです。

PRのチラシやミルメークなどをセットした袋を道行く一般消費者に配布しました。名古屋駅前の２カ所に分かれ配布し、土曜日ということもあり5,200セットを３時間ほどで配り終えました。

受け取っていただいた方から「ありがとうございます。牛乳飲みます。頑張ってください！」などのうれしい言葉もかけて頂きました。

今後もこの様な啓蒙活動を続けていきたいと思います。 (S.M)

名古屋支所発

「美濃酪連酪農祭り」開催

牛乳の日である６月１日㈯に美濃酪農農業協同組合連合会主催の酪農祭りが美濃酪農農業協同組合連合会本所にて開催されました。

多くの家族連れやグループが工場見学や乳製品の試飲・試食を楽しみました。他にも子牛とのふれあい体験や模擬搾乳体験、バター作りなどの多くのイベントが開催されており、子供たちから「美味しい！」「楽しい！」といった声が多く聞かれました。(S.M)

▲ 試飲・試食コーナー

◀ 子牛とのふれあい体験

▲ 工場見学の様子

▲ 模擬搾乳体験

名古屋支所発

「第３回 田原牛枝肉共励会」開催

さる５月17日㈮に愛知県豊橋市のJA愛知経済連東三河食肉市場において、第３回田原牛枝肉共励会が開催されました。

この共励会は、JA愛知みなみ田原牛肥育倶楽部より、肥育技術向上のため本会主催の枝肉共励会を開催してほしいとの要請を受け、３年前から始まったものです。

当日は、会場でお互いの枝肉を確認後、近くのレストランに移動し、JA愛知経済連東三河食肉市場岡田浩志畜産部課長補佐から情勢報告のあと、審査講評と成績優秀者の発表がありました。

表彰式終了後は部会の家族も集まって昼食会が行われ、情報交換や今後のイベントの計画など大いに盛り上がり終了しました。

なお、成績優秀者は次の通りです。　（N.S）

最優秀賞
㈱伊藤牧場
交雑雌　A5（ロース芯面積 94㎝、BMS11、BCS4）
枝肉重量　572.5kg　北美津久

優秀賞
㈱河合牧場
交雑去勢　B5（ロース芯面積 67㎝、BMS10、BCS3）
枝肉重量　566.5kg　福之姫

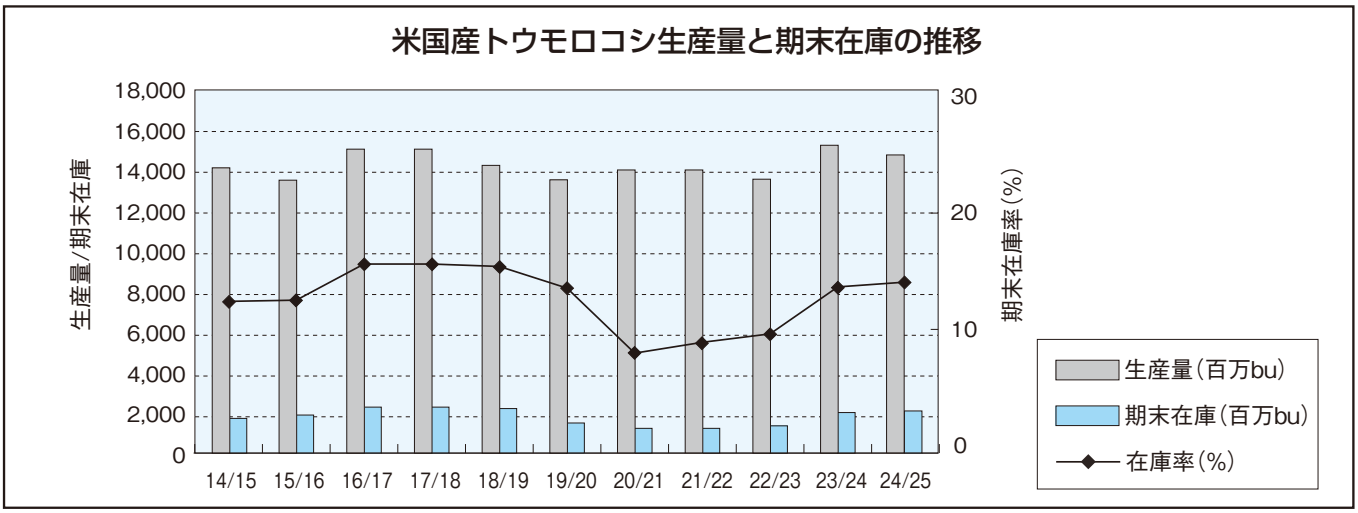
優良賞
河合洋典氏
交雑雌　C5（ロース芯面積 60㎝、BMS10、BCS3）
枝肉重量　630.0kg　北美津久

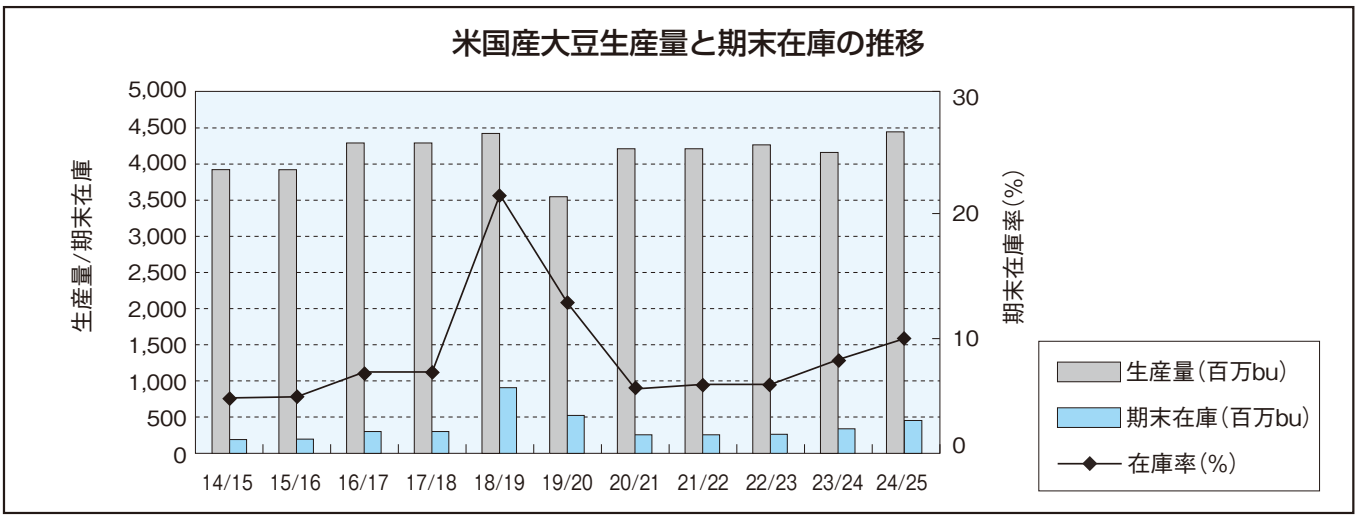
▲ 会場風景

▲ 成績優秀者のみなさん

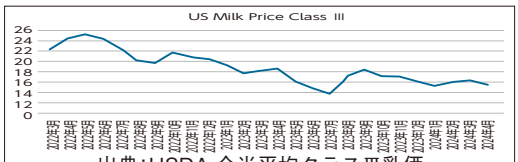
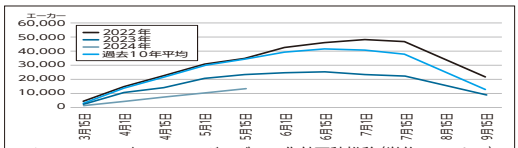
原料情勢　令和6年6月

		23/24年産	24/25年産
6月12日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	作付面積（百万エーカー）	94.6	90.0
	単　　収（ブッシェル/エーカー）	177.3	181.0
	生 産 量（ブッシェル）	153億4,200万	148億6,000万
	需 要 量（ブッシェル）	147億500万	148億500万
	期末在庫（ブッシェル）	20億2,200万	21億200万
	在 庫 率	13.75%	14.20%
トウモロコシ 相場動向	作付け遅延が懸念されていた米国産が、天候の回復により順調に進捗していることや、南米産が概ね豊作水準にあると見込まれることから、シカゴ定期は上値重く推移している。		
大豆粕相場動向	6月の需給報告も特段変化はなく、改めてブラジルでの洪水の影響が軽微であったことが証明された形となった。米国の作付進捗も順調に進んでいることから、シカゴ相場は中長期的に弱含みに推移していくと思われる。		
糟糠類	【一般フスマ】　主製品である小麦粉販売数量はインバウンド需要の影響で前年比100%超えとなっているが、コロナ前の水準まではまだまだ回復していない状況となっている。		
	【グルテンフィード】　中国での養豚マージン回復及び為替円安により輸入価格は上昇している。国産は現在稼働期であるが、主製品の売れ行きや、フィードの歩留まりの悪さから相場はやや強含みに推移している。		
海上運賃	南米や豪州からの中国向け穀物、鉄鉱石、石炭等の貨物需要が引続き高水準にあることから、海運市況は堅調に推移している。		





輸入粗飼料の情勢　令和６年６月

北米コンテナ船情勢	北米西海岸航路は乗継航路を含めて主要な本船スケジュールの乱れが続いており、遅延が発生しています。特に、スエズ運河近くの紅海での混乱が大きく影響し、アジアの主要乗継地であるシンガポール港や釜山港では混雑が相次ぎ、慢性的なコンテナ不足や遅延に拍車をかけています。船会社はスケジュール調整のためにブランクセーリング（抜港）や一部の長距離航路を欠航する対応を行っていますが、状況の回復までは時間が掛かる見込みです。また、11月の米国大統領選挙の結果次第では、中国から米国への貨物に関税をかける可能性もあることから駆け込み需要も増加しています。カナダでは鉄道労働組合（TCRC:Teamsters Canada Rail Conference）とカナディアン・ナショナル鉄道（CN）および、カナダ太平洋カンザスシティ・サザン鉄道（CPKC）の労使交渉が難航しています。TCRC側は投票によりストライキ実施権を獲得しましたが、具体的な日程は確定しておらず、進展がない状況が続いているため、注視が必要です。
ビートパルプ	【米国産】　産地では天候不良により一部遅れていた24-25年産ビートの播種作業が終了しています。ビートパルプの市場については堅調な米国内需に加え、ヨーロッパからの引き合いもあり順調に出荷されています。
米国乳価について	USDA（米国農務省）の発表によると、乳製品市場は世界的な物価上昇の影響で停滞しており、その多くを占めるチーズの需要が低迷しています。4月の全米平均クラスⅢ乳価（チーズ向け乳価）は100ポンドあたり$15.50と2022年5月（$25.21）をピークに減少しています。乳価の低迷により米国内の酪農家は積極的に買付をすることができず、アルファルファの産地相場は落ち着いていますが、今後の乳価や作況次第では需要が変化する可能性もあり注視が必要です。  出典：USDA 全米平均クラスⅢ乳価 単位：米国ドル/100ポンド
アルファルファ	【ワシントン州】　主産地であるコロンビアベースンでは、1番刈の収穫作業が終盤を迎えています。降雨被害を受けた圃場や、冷涼な気候の影響で乾燥期間が長引いたことにより過乾燥や色褪せた品質も発生していますが、葉付が良く色目が良好な上級品が多く収穫されています。産地相場は米国内の乳価も低迷していることから需要は停滞しており、一部の生産農家は1番刈終了後にトウモロコシや豆類に転作すると予想されています。 ◀ 24年産１番刈アルファルファキュアリング（乾燥）中の圃場（５月下旬コロンビアベースンにて撮影） 【オレゴン州】　オレゴン州南部クラマスフォールズでは1番刈の収穫作業が開始されています。24年は干ばつによる水問題もなく、生産への影響はない見通しです。同州中部クリスマスバレーでは5月に入っても最低気温が氷点下になるほど冷涼な気候が続いており、収穫作業は6月下旬から開始される見込みとなっています。高成分品質を求め米国内の買付業者や輸出業者との買付競争も激化することから相場上昇が懸念されています。 ◀ 米国西部州における５月下旬の干ばつ状況の比較 左から2024年、中2023年、右2022年 色が濃い（赤）ほど干ばつが深刻な状況（出典：Drought Monitor） 【カリフォルニア州】　カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、春先の冷涼な気候により収穫作業全体に遅れが出ていますが、現在3番刈の収穫が終盤を迎えており、圃場によっては4番刈の収穫が開始されています。3番刈は上級品～中級品までの品質が発生していますが、産地での気温も上昇し始めていることから、直近で収穫された品質は低下しており中級品～低級品の発生が中心となっています。インペリアルバレー灌漑局の発表によると、5月15日時点でのアルファルファの作付面積は144,365エーカー（前年同期は152,480エーカー）と前年同期比95%と減少しています。
	【ユタ州】　産地では1番刈の収穫作業が行われています。冬季期間に十分な降雨、降雪があったことで干ばつ状況も改善され、生産環境は好転しており、このまま良好な天候下で収穫作業が進めば良品が多く発生する見込みです。24年産は生産周期によりアルファルファへのクロップローテーション（輪作）が多く、作付面積、生産量は増加する見込みです。産地での未成約在庫は中～低級品が中心で、上級品については近隣州からの引き合いもあり限定的です。 ◀ 24年産１番刈アルファルファ圃場５月中旬ユタ州にて撮影
チモシー	【米国産】　主産地であるワシントン州コロンビアベースン及びエレンズバーグでは、1番刈の収穫作業が開始されています。相場の低迷から1番刈収穫後に豆類やジャガイモへの転作が予想されていることに加え、貯水池の水不足の影響からエレンズバーグで夏期以降に取水制限が行われると見込まれており、2番刈生産量の減少が懸念されています。また、米国内の馬糧向け需要も堅調に推移していることや一部の輸出業者が保持していた繰り越し在庫の出荷目途もついていることから、生産より需要が上回り、産地相場高騰の一因になり得ることも考えられるため注視が必要です。
	【カナダ産】　主産地であるアルバータ州南部レスブリッジ地区では土壌の水分状態を危惧する声も出ていましたが、4月下旬以降、降雨に恵まれ土壌状態は良好で、1番刈の収穫は7月中旬頃から開始される見込みです。同州中部のクレモナ地区では昨年、干ばつや降雨の影響で良品は限定的となりましたが、土壌状態も良好なことから良品の生産が期待されています。産地在庫はカナダ国内の酪農家からの引き合いが堅調ということもあり限定的です。
スーダングラス	主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、現在24年産の収穫作業が順次開始されています。1番刈の収穫作業終了後、2番刈に進むかどうかは相場次第と考えている生産者も多く、2番刈での発生が多い中～低級品の発生は限定的になる見込みです。23年産の在庫に加え、未だに22年産の旧穀在庫を抱えている輸出業者もいるため作付面積の減少による供給力に懸念はありませんが、今後の相場次第では今期の生産量と繰り越し在庫より需要が上回ることも考えられるため注視が必要です。灌漑局の発表によると、6月1日時点の作付面積は14,371エーカー（前年同期は24,704エーカー）となっており、前年同期比58%と、低水準での推移が続いています。  インペリアルバレー スーダングラス作付面積推移（単位：エーカー）
クレイングラス	**クレインは全酪連の登録商標です。** 主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、1番刈の収穫作業が終盤を迎えており、圃場によっては2番刈の収穫が開始されています。これまで収穫された1番刈の品質は良好で柔らかな上級品が大半ですが、一部春先の冷涼な天候で草が伸び切らず成熟した中級品も発生しています。灌漑局の発表によると、5月15日時点の作付面積は21,353エーカー（前年同期22,170エーカー）となっており、前年同期比98%とやや減少しています。日本向けの出荷は安定していますが、韓国向けでオレゴン産ストローの在庫が限定的ということもあり代替としての需要が増加しています。ファロープログラム（休耕地政策）について、政府当局内での協議は最終局面を迎えていますが、実施の有無については未だ決定されていません。
バミューダ	主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレー灌漑局の発表によると、5月15日時点の作付面積は66,447エーカー（前年同期：64,852エーカー）と前年比102%とやや増加しています。現在、バミューダヘイ2番刈の収穫作業が開始されており、米国内馬糧向けに取引されています。ストロー生産は種子収穫が終了した圃場で6月中～下旬から開始される見通しで、安価な繊維源としての需要も増加しており荷動きは堅調に推移しています。
オーツヘイ・ウィートストロー	【豪州産】　24年産のオーツヘイの播種作業は最終盤を迎えています。春先までの降雨不足による影響で圃場は乾燥していましたが、5月から西豪州の多くの地域で降雨があり、6月に入っても東豪州や南豪州で降雨が続いたことで生育期のオーツヘイにとって恵みの雨となっています。今後、降雨が続けば生産に問題はない見通しですが、乾燥した気候が続くと収量への影響も危惧されることから注視が必要です。豪州海運情勢については紅海問題やアジア地域の積替港に残留している大量のコンテナの影響により、本船スケジュールの乱れが続いています。多くの船社はブランクセーリング（抜港）や寄港スケジュールの調整を通して正常化に努めていますが、解決には時間が掛かる見通しです。

INFORMATION

北海道 乳牛産地情報

令和６年７月１日現在

札幌支所	TEL 011-241-0765
釧路事務所	TEL 0154-52-1232
根室駐在員事務所	TEL 01537-6-1877
帯広事務所	TEL 0155-37-6051
道北事務所	TEL 01654-2-2368

価格状況 ↑……強含み ↗……やや強含み →……横這い ↘……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	25～35	↓	札幌管内の6月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で95.9%、累計で98.0%、苫小牧管内月計で96.8%、累計で97.7%の実績となっております。7月の初妊牛動向といたしまして、9月下旬～10月中旬分娩が中心となります。秋口の分娩腹の出回りが増えますが、夏場の輸送リスクを考慮した買い控え、道内外の購買意欲の減少から引き続き軟調に推移すると見込まれます。経産牛や育成牛に関しても、同様な価格推移になると見込まれます。出回り頭数は少ない地域ではありますが、優良牛や高能力牛を取り揃えておりますので、ご希望がございましたらお問合せください。
	初妊牛	40～50	↓	
	経産牛	30～40	↓	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	30～35	→	根釧管内の6月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で98.4%、累計で100.8%、中標津管内月計で98.6%、累計で100.9%の実績となっております。7月の初妊牛動向といたしまして、9月下旬～10月中旬の分娩中心となります。初妊牛に関しては、都府県での導入意欲の減少により、先月に引き続き軟調傾向と見込まれます。軟調な相場が続いていることから、道内酪農家は生体販売を抑えて自家保留する傾向が出始めており、出回り頭数が減少する可能性があります。腹別では、雌雄選別腹・F1腹ともに弱含みとなっております。
	初妊牛	40～50	↓	
	経産牛	30～40	↓	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	32～42	↘	帯広管内の6月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で99.1%、累計で100.1%の実績となっております。7月の初妊牛動向といたしまして、9月下旬～10月中旬分娩が中心となります。初妊牛については、昨年の猛暑の影響により、夏分娩が多く偏った状況が継続しており、導入意欲・引き合いは弱く、価格は弱含みに推移すると見込まれる一方で、資源の出回りは豊富にあり、雌雄選別腹・F1腹ともに価格差が縮まり確保しやすい状況となります。経産牛については、夏場の暑い時期の移動リスクを考慮し、引き合いは弱く、価格は軟調に推移すると予想されます。育成牛に関しては、将来的な資源確保の動きから、引き合いはあると見込まれますが、まだ相場はやや弱含みで推移するものと予想されます。
	初妊牛	40～50	↓	
	経産牛	30～40	↓	
道北管内	育成牛(10-12月令)	30～40	↓	道北管内の6月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で98.5%、累計で98.4%、北見管内月計で99.9%、累計で101.7%の実績となっております。7月の初妊牛動向といたしまして、9月下旬～10月中旬分娩が中心となります。秋口に向けた分娩中心となりますが、夏場の輸送リスクもあることから、まだ引き合いは弱く、今夏が猛暑である場合はさらに引き合いは低迷する可能性があります。腹別の資源については、雌雄選別腹・F1腹ともに確保できる状況です。経産牛に関しては、道内生乳生産の意欲が強くなり、即戦力を求める動きが出始めており、需要が高まっていますが、夏分娩の経産牛はまだ動きが鈍く弱含みに推移すると見込まれます。育成牛に関しても、弱含みに推移すると見込まれます。
	初妊牛	40～50	↓	
	経産牛	30～40	↓	
道内総括	育成牛(10-12月令)	30～35	↓	道内の6月中旬までの生乳生産量前年比は98.6%、累計で100.1%の実績となっております。道内では1番牧草の収穫が順調に進み収量・品質とも期待できる状況となっています。7月の初妊牛動向といたしまして、前月の8月分娩腹中心の相場が急落したことにより9月～10月中旬腹についても軟調に推移するものと思われます。全国的に昨年の夏時期の授精遅れの影響により、分娩が一時期に集中したことから、導入意欲は低いものと考えられます。しかしながら、生乳生産の意欲は高まっており、秋分娩以降の相場の見通しは不透明ではあるものの、相場が反転する可能性は十分に予想されますので、早めの導入をおすすめいたします。弊会としては引き続き、庭先選畜購買を中心にご希望にあった搾乳用素牛を供給して参りますのでご注文よろしくお願いいたします。
	初妊牛	40～50	↓	
	経産牛	30～40	↓	

今月の表紙

今月の表紙は「第13回酪農いきいきフォトコンテスト」に応募いただいた作品「モーモーちゃん、いつも美味しいお乳を出してくれて、ありがとう♥」（熊本県 松島太一氏 撮影）です。

令和６年７月10日発行（毎月1回10日発行）
全酪連会報　７月号　No.706

●編集・発行人　岡田征雄
●発行　全国酪農業協同組合連合会
〒151-0053　東京都渋谷区代々木一丁目37番２号 酪農会館
TEL 03-5931-8003　https://www.zenrakuren.or.jp/

編集後記

●今年の「らくのうこどもギャラリー」には、全国から255点の応募をいただきありがとうございました。厳正な審査の結果、選ばれた入賞作品をご紹介しました。ご応募いただきました皆さまには心から感謝申し上げるとともに、来年もより多くの応募をお待ちしております。

●梅雨明けもまだのなか、暑い日が続いています。熱中症の予防など健康に十分注意され、牛も人も元気にこれからはじまる夏を乗り切りましょう！

●会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。
shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

今月の らくのうこどもギャラリー 入賞作品紹介

特選

元気な牛

会津若松市立鶴城小学校 6年（東北）　菊地遥空

今月の入賞作品は…

会津若松市立鶴城小学校 6年（東北）の菊地遥空さんの作品です。

清々しい青空をバックに下から見上げられた牛さんが描かれています。今年のこどもギャラリーで傑出して目を引いた作品です。柔らかなタッチで描かれた牛さんの毛並みや、流れを感じさせる雲の描写など、画面全体に重厚感がありながら繊細さも兼ね備えた素晴らしい作品です。

※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第50回らくのうこどもギャラリー」で全国255点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催　全国酪農青年女性会議